

## 特定健診時にピロリ菌検査の導入を

質問者 小川 龍美

わが国では、年間5万人が胃がんによって亡くなっている。その大きな原因がヘリコバクターピロリ（ピロリ菌）といわれており、感染者数は3500万人にも上るとみられている。ピロリ菌検査は血液を採取し、ピロリ菌感染の有無と胃粘膜の萎縮度を調べるもので、胃がん発症のリスクを判断することができる。現在、町ではバリウム検査が行われているが、特定健診時に、採血によるピロリ菌検査を行う方が効果的と考えるが。